ギャロデット大学大学院手話通訳学部カリキュラム（一部抜粋）

①医療通訳談話分析

②精神保健（メンタルヘルス）通訳談話分析
※同大学院のカウンセリング学部と
合同トレーニング

③学内の実習
盲ろう（ろうベース）通訳

精神保健通訳トレーニング in アラバマ州

ろう者を対象とするサービス機関と、米国ろう者リハビリテーション協会が提携。アラバマ州精神保健省管轄。

精神保健(メンタルヘルス）手話通訳士
Qualified Mental Health Interpreter (QMHI)
・４０時間トレーニング
・実習

現場の経験から

コミュニケーション（意思疎通）

“ 分かち合うこと、共有すること”
ラテン語のコムニカチオ（Communicatio）

コミュニケーション

意味や感情をやりとりする行為である。

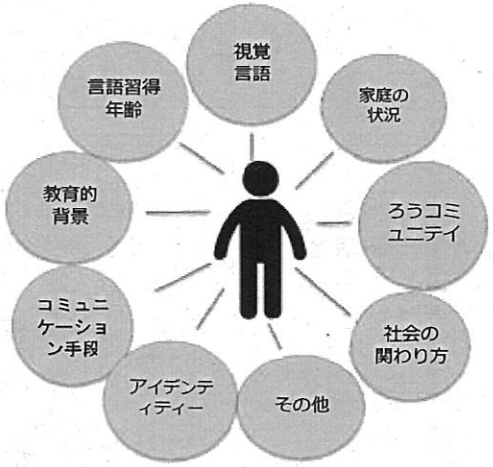
一方通行で情報が流れるだけでは、
コミュニケーションとは呼ばない。

（斎藤,2004）

聴覚障害ゆえのコミュニケーション阻害による言語獲得の遅れが、認知発達を阻害し、あらゆる全人的発達に影響を及ぼすということ、そしてそのコミュケーション阻害は、ろう児・者コミュニティや手話環境が整うか否かに大きく左右される。

引用先：聴覚障害と他の障害を併せ持つためにコミュニケーションに困難を抱える障害児・者に対する支援の質の向上のための検討　成果報告書

背景



ろう通訳の現場

【国際】
- 舞台上通訳
- エスコート通訳
- ワークショップ

【地域】
（聞こえる通訳者と協働）
- コミュニティ通訳
  - 司法
  - 医療
  - 精神保健
  - 教育

- 盲ろう通訳・介助者
- フィーダー
- ミラー通訳（聴衆通訳）
- 手話通訳コーディネーター
- ろう通訳コーディネーター
- 手話通訳者養成講師
- ろう通訳者養成講師
- その他

有資格のろう通訳者活用することの利点

- 全ての関係者に最適な理解を与える。
- 時間と資源を効率的に利用できる。
- 言語的及び又は文化的な混同や誤解を明確にする。
- その通訳状況においてはっきりとした結論を出せる。

（川上訳）

引用先：USE OF A CERTIFIED DEAF INTERPRETER

DELK（Deaf Extra Linguistics Knowledge）【ろうに関する言語外の知識】

以下において幅広く使われる

- 利用者の把握（アセスメント）
- メッセージの分析
- ろう利用者の言語的・経験的背景に合った通訳の実現のために手話表出の段階で使われる

（川上訳）

引用先：NCIEC DI Initiative: Presented at RID Deaf Caucus 2009

現場の経験から

- コミュニケーションのあり方
- 会話の構造

現場の経験から

- 信頼関係
- 多様な背景
- コミニュケーションスキル
- ろうコミュニティ

<u>大変だったこと</u>

会議通訳で通常使用されているレジスター（register)は、フォーマルあるいは半フォーマルであるのに対し、コミュニティ通訳では、場面や参加者によってフォーマルのレベルがまったく異なる。

（飯田,2018)

常に心構えていること

- 「一人の人間」
- 信頼関係
- 安心感
- 当事者のコミュニケーション能力
- 安定したコミュニケーション環境
- 専門家及び関係者、家族との連携

現場で働く上、通訳者としての「自己覚知」が大切

最後に

「支援」

「自立」

「人権」

「共生社会」

ご清聴ありがとうございました。

ろう重複障害者との出会いから学んだこと
～相談員活動を通して～

２０２０年2月１５日(土)
元特別養護老人ホーム「ななふく苑」施設長
岩田　恵子

（１）はじめに

（２）私のこと
　　ろう学校の思い出
　　大学の思い出
　　実習・施設見学を通して

（３）埼玉県ろうあ者相談員としての 24 年間

（４）特別養護老人ホーム「ななふく苑」での２年間

（５）ろう重複障害者との関わりの中で学ぶ
　① 「20 年間も精神病院に入っていた」いろいろなＡさん
　② 「子どもを殺して死んでほしい」と言われた母親とＢさん
　③ 「手話が見えないから悲しい」と言ったＢさん
　④ 「子どもに騙されたのでは？」と警察に駆け込んだＤさん
　⑤ 「あなたは信じられない」と言い続けたＥさん
　⑥ 「学校に行けなかった」Ｆさん
　⑦ 「家族ではない」と言われたＧさん

（６）最後に
　① どんなに障害が重くても、年を重ねていても、人間は確実に発達している
　② スピードは人によって異なるが、素晴らしいと実感できるのは誰？
　　そばにいる人であってほしい。（家族・教員・施設の職員、地域の方々等）
　③ 共生社会とは

令和2年度群馬大学公開講座（Bコース）アンケート結果表

講座名：「ろう者が拓く、ろう重複者支援」

回収率：77.8%（受講者 117人，回答者 91人）

○性別

男性	女性	無回答	合計
19人	63人	1人	83人
22.9%	75.9%	1.2%	100.0%

○年齢

10代	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上	無回答	合計
1人	5人	14人	22人	26人	13人	1人	1人	83人
1.2%	6.0%	16.9%	26.5%	31.3%	15.7%	1.2%	1.2%	100.0%

○過去の講座の受講の有無

あり	なし	無回答	合計
31人	44人	8人	83人
37.3%	53.0%	9.6%	100.0%

1．講座を知った理由（複数回答可）

大学ホームページ	公開講座案内リーフレット	チラシ	勤務先（学生の場合は学校）	Facebook等のインターネット媒体	新聞紙等	知人等	その他	無回答	合計
14人	13人	6人	9人	17人	1人	23人	7人	0人	90人
15.6%	14.4%	6.7%	10.0%	18.9%	1.1%	25.6%	7.8%	0.0%	100.0%

チラシ：配布場所
手話サークル

その他
・トマトの会
・手話講座受講時に告知

2．講座の理解度

理解できた	ある程度理解できた	理解できなかった	無回答	合計
48人	32人	3人	0人	83人
57.8%	38.6%	3.6%	0.0%	100.0%

ある程度理解できた理由
・要約筆記があると助かる。
・1コマ目がある程度理解できた.

理解できなかった理由
・難しかった。
・2コマ目が理解できなかった。
・理解できない部分もあった。

3．開催時期

適当である	その他	無回答	合計
75人	6人	2人	83人
90.4%	7.2%	2.4%	100.0%

その他
・9月が良い（2人）
・6月が良い（2人）
・11月が良い
・2月以外が良い
・4月が良い（2人）

4．講座の回数・時間

適当である	短い	長い	無回答	合計
65人	0人	16人	2人	83人
78.3%	0.0%	19.3%	2.4%	100.0%

長い
・1回1時間位が良い
・3回4時間位が良い
・1回3時間位が良い（2人）
・3回5時間位が良い（2人）

5．開催曜日

平日が良い	土曜が良い	日曜・祝日が良い	すべて	平日か土曜が良い	平日か日曜・祝日が良い	土曜・日曜・祝日が良い	無回答	合計
2人	43人	2人	3人	3人	2人	26人	2人	83人
2.4%	51.8%	2.4%	3.6%	3.6%	2.4%	31.3%	2.4%	100.0%

6．開始時刻

適当である	その他	無回答	合計
63人	18人	2人	83人
75.9%	21.7%	2.4%	100.0%

その他
・10時が良い（5人）
・12時半～13時頃が良い
・13時が良い（9人）
・13時～14時頃が良い
・終了時間はもう少し早いほうが良い。

7．交通手段

自家用車	電車・バス	自転車・徒歩	その他	無回答	合計
45人	33人	0人	4人	1人	83人
54.2%	39.8%	0.0%	4.8%	1.2%	100.0%

その他
・新幹線
・タクシー(3人)
・飛行機（2人）
・電車
・バス
・車に同乗

8．アンケート結果の公開

可	否	無回答	合計
83人	0人	0人	83人
0.0%	4.8%	1.2%	100.0%

○意見・感想・大学への要望等，開設希望講座

・大変興味深い講座をありがとうございました。日々の業務に活かしたいと思います。今後も企画を楽しみにしています。
・社会人でも手話通訳士の資格を取りたいのですが、入学するにはどうしたら良いのか！？
独学で心理学も学び、今は市町村が開講している手話講座に通っています。
こちらの大学ではいろいろな時にお世話になっていますので何とかゼミを受講したいです。資料を入れる袋が欲しいです。
・素敵な公講演をありがとうございました。手話は読み取れるのですが、川上さんおっしゃったように日本語での文も知りたいので
読み取り通訳の声をUDトーク等で文字にしていただけるとうれしく思います。
・「ろう重複」だけをテーマにしたシンポに多くの方たち（いかにも若い方が多い）が集まっていることに感心した。今後継続してほしい。
ろう学校が昔からそうだが、ろう重複児を知的の特支へ追いやっている現状問題についても取り上げていけばどうか。
・色々な方（みなさん異なる現場で活躍されている方）の話を１日で複数開くことができる貴重でとても有意義な時間でした。
今の仕事にも活かせる（自分の引き出しを増やす）情報が得られたような気がします。ありがとうございました。
・大学で手話サークルに入ってる程度で、今回の講座では知らないことばかりでしたが、来てよかったと思いました。
・私は大学から上京したのですが、駅や商業施設で障害を持つ方を多く見かけるので驚いたことを覚えています。
地元ではまだまだ誰もが動きやすい環境ではないのだと気づかされました。大学でろう者の世界を知ることができて
本当に良かったと思っています。いつか私も誰かの助けとなれるようこれからも手話など続けていくつもりです。ありがとうございました。
・手話語学、ろう心理学の講座を聴講したい。
・6時間あっという間でした。ぜひ、来年も参加したいと思います。現在は知肢の重複児と関わっていますが、
コミュニケーション面で同じような課題があるように感じました。
・手話通訳が上手に聞こえますが読み取った内容が気になる時もありました。できればＰＣ要約もお願いいたします。
・大変勉強になました。ろう重複者障害についての学術的な見解から現場での支援での事例紹介までお聞きできて、参考になりました。
・大変良かったです。同じような講座をまた設けてほしい。
・就労支援（ジョブコーチ）をしている中で対象者の言語をさぐっていくことを心掛けていますが難しい。
・講演中に人の出入りが視覚に入るので聾にとっては最悪。会場を考えてほしい。
あと講演中は基本出入禁止！前半2人の講演ＰＰＴに文字満載なのに読む時間ほしい。
・明日のシンポジウムにも参加するため、午後から開催でも適当だと感じました。しかし、仮に明日のシンポの予定がなく、
今日一日の講座であれば半日では足りなく、1日の日程でやってほしいと思うでしょうし、遠方からの参加は難しかっただろうと思います。
8～9月頃だと、研究会や学会が例年開催されているため、時期をずらしてこの時期だと他のものとかぶることがないので良かった。
・北海道から参加しました。時間を掛けてでも来てよかったと思える内容ばかりで、大変勉強になりました。時間の都合上、
「ろう重複に焦点を当てた研修はなかなか聞くことができないため、自校にいる子どもたちへの適切な指導を行うのに、
参考にさせていただきと思います。
自校にいる子どもたちへの適切な指導を行うのに、参考にさせていただきと思います。
・ろう重複児童に対する実践的は指導や対応について。また家族の問題について。ろう教育関係者とろう児童のサポートをする福祉関係者
（放課後等デイサービス職員など）が情報交換・意見交換をし、連携をとって、ろう重複児童とチーム支援をしていくことができないかなど
現状をより良くしていける対応や対策をみつけていきたい。
そういったことに関連した講座や研究会があったらぜひ参加したいと思っています。
・また講座があれば行きたいと思います。
・とても有意義な4人の方のお話でした。また是非お願い致します。
・教室の入り口のブラインドしていただいて助かりました。それぞれの講師の話、勉強になりました。来てよかったです。
・たくさんの参加者が集まる機会があってとても良かったです。今後も続けてほしいです。
・専門用語について漢字を知るため板書がないので要約筆記があっても良いのでは？
一般市民も参加する講座なので専門用語に解説がないと分かりにくい（大学の講義ではない）
・今回初めての受講でしたが、どの講師のお話も大変中身の濃い内容でした。
今後もこのような機会がありましたら積極的に参加したいと思います。「一生学び続ける」のは大切だと思いました。
・初めて参加しました。色々と勉強になりました。ありがとうございました。県外から参加者が多いことに驚きました。
今後、何かできるのではという可能性も思いました。
・初めて参加をしましたがそれぞれ理論や実践の中でのお話をして下さり、大変参考になりました。
機会がありましたらぜひ、明晴学園のお話が伺いたいと思います。
・学術的な話も面白く良かったが、最後の岩田さんのような方の話がとても大切だと感じた。手話通訳はつけないで欲しかった。
・今の仕事に関係ないですが、手話コミュニケーションの大切さ、通訳の役割を学んでいたので参加して良かったです。
・託児をお願いすれば良かったと後悔しています。手話の通訳がわかりやすく言葉も丁寧で声もいいのですごいなーと感じました。
・1番目の講座の資料が吹き出しで隠れて見えない（P10、P12）通訳が良くわからなかった。休憩は１０分でよいと思う。
・個人的にはろう学校在籍生とそれ以外の聴覚障害児をつなげる企画・施設等に興味があります。遠方から参加のため、
あまり開始時刻が早かったり終了が遅かったりすると、不便とはいえせっかく遠くから来るのに短すぎるのも…というジレンマがありますが、
今回のように実質2日間企画で1日目がPMのみ、2日目が10～16時または17時は理想的でした。
・聴者ですが、手話の通訳がとてもかわりやすかったです。口話を手話に通訳をするときは細かい表現をとばしてしまうことも多いのでですが、
そうしたことがなく逆の立場を体験させていただきました。
・聴者として手話口話への直訳ですが、通訳が付くことの意義深さを感じながら受講しました。
・京都から参加しました。（聴障関係の福祉関係の仕事上、研修として参加）ろう重複者と接する上で、手話や発達等の様々な
障害の特性を研究させることで理論的にとらえる機会がなかなかないので多少参考になりました。長時間、
手話を読みとるのは厳しくPC要約筆記も配慮いただけるとありがたいなと思いました。
情報保障の選択肢も増えればより広い情報提供につながると思います。檀上が明るいのでスクリーンがみえにくい。
後ろからもみやすいようにスクリーンに講師をカメラで映し出すとよい。
・初めて参加させていただきました。まずこのようなプロジェクトがあることを知りました。
普段はろう重複の支援に携わっています。支援やコミについて科学的に分折すること、発達保養の視点、通訳についても含め、
そのようなことよりも現場での経験や感覚的なものが優先になっており、もっと勉強や分折が必要と思っていたのでとれも勉強になりました。
もっと学びを深めたいと思いました。まず生き方の書籍を読みたいと思います。ありがとうございました。
・ろう重複の息子と参加しました。息子の障害+性格を理解するまでかなり時間が掛かりました。
先生方のお話をもっと早く伺いたらもっと違った親になれたか？ですがなかまの子を理解するためのお話も伺えました。
息子とまた参加しますのでよろしくお願いいたします。
・すばらしい。4人のろう講師の講義を学ぶことができて良かった。
・また色々な講義を聞きたいです。ありがとうございました。荒牧は遠い。もう少し駅近を希望します。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 日本財団

2019年度　群馬大学公開講座

手話で学ぶ公開講座「ろう者が拓く、ろう重複者支援」

「手話」を表現している ぐんまちゃん

2015年に群馬県手話言語条例、前橋市手話言語条例が制定されました。条例制定を受けて、昨年度、県内のろう重複障害者の実態調査が行われました。この結果を受け、今後適切な支援のあり方について検討していく必要があると考えられます。群馬大学は県内の学術機関として、手話言語条例の施策を推進すべく、本講座を企画しました。

本講座では、講師自らが手話で講義を行うことで、ろう者自身が直接手話で学ぶ機会を提供します。手話通訳を配置いたしますので、手話がわからない方もぜひご参加下さい。

なお、本講座は日本財団助成「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業の一環として実施するものです。

実施責任者：教育学部障害児教育講座教授　**金澤　貴之**

2020年 2月15日(土)

12:00～18:00【開場11:30】

群馬大学荒牧キャンパス教育学部C棟204教室

〒371-8510　群馬県前橋市荒牧町4丁目2番地

※手話通訳 付

前橋駅からバスが出ております。詳しくは群馬大学公式HPなどをご参照ください。

対象者　ろう重複者支援に関心のある方

受講料　**無　料**

申込方法　本学ホームページからお申込みください。

ファックス（裏面送信票）、Eメール、電話からもお申込みできます。
（講座名、氏名(フリガナ)、年齢、性別、郵便番号、住所、職業、学校名等、電話番号、Eメールアドレス及び「「2020年度群馬大学公開講座」リーフレットの送付希望の有無」を明記してください。）

問合せ先

群馬大学　研究推進部　産学連携推進課　産学・地域連携係
TEL：**027-220-7517**（直通）
FAX：**027-220-7515**
Eメール：kouza@jimu.gunma-u.ac.jp

申込期限　**1月26日（日）**

その他　申込みで得た受講者の個人情報は、本学公開講座に関わるその他事務以外には、使用いたしません。

託児・なかま企画について

託児、なかま企画を希望される方は、「有」を選択してお申し込みください。詳細については、「SLSDP@jimu.gunma-u.ac.jp」よりご連絡いたします。なお、群馬大学は事故等の責任を負わないことを申し添えます。（@jimu.gunma-u.ac.jp より連絡いたしますので、受信できるようドメイン設定をお願いします。）

群馬大学　公開講座　検索　https://koukai-kouza.opric.gunma-u.ac.jp/

事業についての問合せ先

手話サポーター養成プロジェクト室
TEL.**027-220-7157** FAX.**027-220-7390**

LINE ID：gunma-u-sign

https://www.facebook.com/gunmasign/

主催　国立大学法人 **群馬大学**
共催　**群馬県、群馬県聴覚障害者連盟**
後援　**前橋市**
助成　**日本財団**
https://www.nippon-foundation.or.jp/

群馬大学公開講座

手話で学ぶ公開講座「ろう者が拓く、ろう重複者支援」

■講義日程

日程		講義内容	講師
2月15日（土）	12：00～13：00	「ろう重複障害者とのコミュニケーション形成で大切なこと ～心理臨床の視点から～」	群馬大学　教育学部 助教　甲斐　更紗
	13：20～14：40	「発達理論からみるろう重複の様相」	大阪大学 キャンパスライフ健康支援センター 講師　中野　聡子
	15：00～16：20	「様々な障害をもつろう者へのコミュニケーション支援～ろう通訳の現場から考えられること～」	米国認定ろう通訳士 川上　恵
	16：40～18：00	「ろう重複者との出会いから学んだこと～相談員活動を通して～」	元特別養護老人ホームななふく苑 施設長　岩田　恵子

FAX送信票

お申込日　　年　　月　　日

群馬大学公開講座　手話で学ぶ公開講座「ろう者が拓く、ろう重複者支援」【参加申込書】

ご住所	〒　　－			
連絡先	TEL（昼間連絡のとれる番号）			
	E-mail	@		
参加者氏名（フリガナ）		年齢	性別	職業
			男・女	
			男・女	
			男・女	
今後、群馬大学公開講座に関わる案内の送付を希望されますか？（『2020年度群馬大学公開講座』リーフレット等）				希望する　・　希望しない
託児利用（無料）				有　・　無
「なかま企画」参加について（無料）		有　・　無		※「なかま企画」の当日スケジュール等の詳細については、後日メールでご連絡させていただきます。 ※「なかま企画」とは…ろう重複児・者のための別会場の企画です。

上記のとおり、群馬大学公開講座に申込みます。

ＦＡＸ送信先：群馬大学 研究推進部 産学連携推進課 産学・地域連携係

ＦＡＸ：027-220-7515　申込期限：1月26日（日）

6. 「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業シンポジウム

2020年2月16日（日）開催

日時：2020年2月16日(日) 10:00～17:00
場所：高崎市総合保健センター 2F第1会議室
(群馬県高崎市高松町5-28)

日本財団助成「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業シンポジウム
～教育機関で求められる手話の専門性と資格制度化の可能性～

プログラム

10:00～10:15 開会挨拶

10:15～10:35 事業成果報告

●「全体概要」
金澤 貴之（群馬大学 教育学部 障害児教育講座 教授）

●「『オンライン学術手話通訳教材集』の効果的な使い方」
中野 聡子（群馬大学 教育学部 障害児教育講座 准教授）

10:35～11:15 手話通訳養成の取り組み

●「構文指導のためのテキスト開発と授業実践」
下島 恭子（群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 産学官連携研究員）

●「着実な技術習得のための通訳カリキュラム再編成」
能美 由希子（群馬大学 教育学部 障害児教育講座 助教）

11:15～11:55 ろう重複障害者支援者養成の取り組み

●「盲ろう者支援者養成カリキュラムの導入」
甲斐 更紗（群馬大学 教育学部 障害児教育講座 助教）

●「『なかま企画』実施の意義」
二神 麗子（群馬大学 教育学部 障害児教育講座 助教）

11:55～12:00 事務連絡

12:00～13:00 昼食休憩（60分）

13:00～14:30 行政説明

●「手話の資格化をめぐる諸課題」
「聴覚障害教育の専門性の向上に向けた課題」
佐々木 邦彦氏（文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育企画官）
「教員の専門性を向上するための体系的・効率的な学びに向けて」
長谷 浩之氏（文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員免許企画室長）
「手話通訳士・者養成の現状」
塩野 勝明氏（厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室長補佐）

14:30～14:45 休憩（15分）

14:45～16:45 パネルディスカッション

●「教員養成に求められる手話のスキルとは？」
［ファシリテーター］
金澤 貴之（群馬大学 教育学部 障害児教育講座 教授）
［パネリスト］
久川 浩太郎氏（筑波大学附属聴覚特別支援学校 教諭、群馬大学 教育学部卒業生）
秋山 奈巳氏（川崎市立聾学校 教諭、群馬大学大学院 教育学研究科専門職学位課程修了生）
今井 絵理子氏（内閣府 大臣政務官）※公務の都合により欠席がありうることご容赦ください。

16:45～17:00 閉会挨拶

※詳細については、「2019年度シンポジウム報告書」をご覧ください

アンケート結果

2020 年 2 月 16 日（日） 10:00～17:00
高崎市総合保健センター 2F 第 1 会議室

回収率：46.8%（受講者　205 人、回答者　96 人）

1. 所属・職業について（複数回答可）

手話通訳者	21 人	18.9%
学術機関関係者	5 人	4.5%
行政関係者	6 人	5.4%
特別職公務員（議員等）	3 人	2.7%
学校関係者	25 人	22.5%
福祉関係者	10 人	9%
会社員	15 人	13.5%
学生	7 人	6.3%
その他	18 人	16.2%
無回答	1 人	0.9%
合計	111 人	100%

・その他
医療、手話学習者、手話サークル、市議会議員、手話通訳者基本課程修了、自営業、医療関係、保育者養成子育て支援、ろう者・手話団体（サークル）代表・NPO メンバー、パート、群聴障連会員パート、医療技術者、手話サークル会員

2. 聴覚障害の有無について

有	26 人	27.1%
無	70 人	72.9%
無回答	0 人	0%
合計	96 人	100%

「有」を選択した方のうち、

ろう者（手話話者）	26 人	100%
ろう者（非手話話者）	0 人	0%
無回答	0 人	0%
合計	26 人	100%

「無」を選択した方のうち、

聴者	67 人	95.7%
聴覚以外の障害者	3 人	4.3%
無回答	0 人	0%
合計	70 人	100%

3. 本シンポジウムを何で知りましたか（複数回答可）

友人・知人からの口コミ	42 人	34.7%
チラシ	29 人	24.0%
インターネット（HP・Facebook 等）	30 人	24.8%
その他	18 人	14.9%
無回答	2 人	1.7%
合計	121 人	100%

・その他

研究会からのお誘い、群大からの案内状、金澤先生の神奈川での講演、講師、サークル・市の公民館のチラシ、手話サークル、金澤先生の紹介、上司からの紹介、職場で回覧・チラシ配布、手話サークル、上毛新聞、昨年も参加、職場、手話講座での告知、PEPNet、県の研修時に講師（金澤氏）からの案内、通訳者研修の時、YouTube

4. 本シンポジウムに関心を持った理由は何ですか。（複数回答可）

手話言語学に関心があるため	50 人	25.6%
手話に関心があるため	55 人	28.2%
言語に関心があるため	19 人	9.7%
手話通訳に関心があるため	56 人	28.7%
その他	15 人	7.7%
無回答	0 人	0%
合計	195 人	100%

・その他

ろう重複について、大学・学術部門での手話に興味ある、養成の関心、実際介助で活動しているため、教育に関するテーマが入っていたため、大学での指導について、共生社会を目指して、ろう教育に関心があるため、手話を習得するための知識として、教育行政の在り方に興味があるため（特支）、金澤さんの取り組みに関心があるため、先輩方から本シンポジウムの情報を聞いたため、ろう重複に関心あるため、ろう重複障害への支援、地元での指導の参考に

5. 本シンポジウムの内容はいかがでしたか

とても満足	33 人	34.4%
満足	46 人	47.9%
普通	3 人	3.1%
不満	2 人	2.1%
とても不満	1 人	1%
無回答	11 人	11.5%
合計	96 人	100%

6. 本シンポジウムに関して、ご意見・ご要望等ございましたらご記入下さい

・昨年にも増して充実した内容と大きなおみやげ！感激～♡学生さん達の成長もグンと感じられました。

・群馬大学の手話通訳、盲ろう者通訳養成カリキュラムの中で外部者が受講できる授業が開設されましたら、ぜひ受講したいと思いました。貴大学での取り組みが全国に広がり、手話通訳者の技術向上につながることをお祈りしています！

・手話通訳養成についての画期的な教材・カリキュラム開発について多くのことを学ぶことができました。ありがとうございました。貴学の取り組みを全国大学の Role モデルとして発展させてほしいです。授業での工夫などもっと詳しく伺いたかったです。文科省の方のお言葉に「手話を活用する」という表現が多く、少し気になりました。日本手話は言語であり、ICT のように「利用する」道具ではありません。「母語」という表現もなかった。

・休憩が無い！聴障者は目で詠むことにより、疲労が早い。小刻みで良いから休憩時間の設定をお願いします。周りも疲労困憊におりました。講義中に手話で話す人が多く、見苦しい！注意喚起願います！！

・時折、講師と手話通訳者の画面がずれている。画面は固定になるようにしてほしい。

・途中で帰ってすみません。中野さん、下島さんの手話を見て頭にぱっと入ってくるので、日本手話の説明っていいなとほんとに思いました。

・とまとの会のこと全く知りませんでした。私の所属する手話サークルで何かしら交流の機会が持てたらよいなと思いました。もうろう者(ろうレベル)との交流も行っているサークルなので「なかま企画」とも連携がとれるとよいと思いました。下島さんのおっしゃる「日本語からの転移が高くなりがち」とは、日本語で書かれた文をろう者に手話で表してもらうと対応手話になってしまうという意味でよいでしょうか？サークル内でも"日本手話を知りたい"と考えている私ですが文章を書くと、対応手話で表してくださるのでちょっと混乱というかとまどってしまいます。極力写真や映像で見ていただいて何をやっているのでしょう？と質問することでろう者の日本手話を表していただいてはいるのですが…。また、"まだ"ということばについてのお話はとても興味深く感じました。手話の"まだ"は始まっていないという時だけの意味だと知りました。手話辞典にはそのような説明がないので正しく理解する上でもこのようなお話はありがたいと思いました。

・下島先生が拡大スクリーンに出るとき、カメラフレームが数回左右、奥行きずれたことがあった。気が散るので最小限にして頂きたい。中野先生のネックレス、うでどけいがキラキラして手話に集中できなかった。ネックレスだけでもはずしていただきたい。

・教育カリキュラムがしっかりつくられていて、もし学生だったら入学したいと思いました。ぜひ今後はろう学校での手話の普及にもつなげていただけたらと思います。もっと色々な方にも聞いてほしい内容だと思いました。

・私は地域の講習(初、基、上、フォローUP)と地域のろう協との関わりの中で通訳の資格を取得しました。それは 2~3 年ではなく、10 年近くになります。地域のろう者の信頼を得て初めて通訳活動につながると思っています。国リハ出身の方が地域のろう者となじめず、登録をとり消したという例もあります。ろう者(学校のろう教師とは別に)との交流が何よりも通訳活動に大切ではないでしょうか。

・パワポの資料が小さくてとても見にくいです。

・特に、構文指導のためのテキスト開発、授業実践は、とても勉強になりました。この素晴らしい取組が全国に広がると良いと思います。来年度以降も、シンポジウムを企画していただきたいです。手話通訳もとてもレベルが高く、とても勉強になりました。

・学術手話通訳のみでなく、通訳者教育もしくは課程のあり方に変革をもたらすこと(内容)であると考える。言語を学んでいく、どのように手話言語を教育していくのか、課題として考え続けたいと感じた。

・群大は手話通訳の確保はコミプラでなく Com.プラス？？（原文ママ）に頼んでいるのですね？初めてききました。とても上手、わかりやすい、よかった。大学での手話通訳養成が他とも連携できる様にしたいという金沢先生との話の具体的なところ聞きたい。

・スライド等のテクニカルな問題はできるだけ起きないようにして頂ければと思います。カメラワークもあまり良くありません。改善を希望します。

・時間がたりないくらい内容もりたくさんでした。なかなか聞くことのできない話を専門家の方々から説明してもらえてありがたいと思いました。他県からも参加者が来ていると聞きました。もっと群馬の人々も参加、協力できると良いと思いました。こんなチャンスありがたいです。群大の学生とは、夏の大会等で会いましたがボランティアとしてがんばって手話を使って対応できています。ほほえましいです。

・関西学院大学との連携して講演や研究など取り組むことを聞いて大変素晴らしいと思います。とても期待しています。もし、できれば、筑波技術大学も連携していくと良いですが…。教材等についていい情報ありがとうございます。使わせていただきたいです。学校(現場)は、手話だけでなく日本語指導する力を求められています。日本語指導するためのカリキュラムを作ると良いかもしれません。

・将来に通訳になるまで目指していないですが、日本人のろう者と会話できるぐらいのスキルを習得したいと思います。

・群馬大学の取り組みを、群馬テレビやNHKぐんまなどで特集してほしいと思った。若人(学生)ががんばっていることを知って、手話サークルなどへ参加する人が増えてくるのではないかと思う。
・初参加ですが、本当に根が深い。群馬ろう学校は「質」がないと思っていたら、他県も同様だった事、まさに、井の中の蛙だと自分が恥。やっぱり、他県の様子も色々交流しなければ…。また、県や行政も、もう少し見直して欲しい部分があった。
・各先生の話をたくさん聞くことができ、タメになりました。要望としては話が点々としていたところがあったので、統一した話の軸があると有難いです。これから、手話に関してより興味のある人になっていきたいと思いました。
・勉強になりました。機材トラブル、また画面がぼやけ気味。残念でした。資料が細かい。(特に行政説明)読めなくて残念です。情報保障の幅広い様子を体験できよかった。
・群馬大学の手話サポーター養成の取組は、授業としてきちんと位置づけられておりカリキュラムや教材(テキスト)など、とても参考になりました。頭も体もフレキシブルな学生時代にしっかりと学べる環境があることは大きな意味をもつと思いますし、他県にも広がっていくと良いなと感じました。たくさんのお土産をいただいたので、地元にもと帰り生かせたらと考えています。午後の話を聞きながら、インセンティブの 1 つとして手話検定の合格や手話通訳資格の取得などポイント制にして、ろう学校に長く在籍できるというのもあるのでは？などと考えました。
・初めて参加させていただきました。整った情報保障の設備、何か起きたらすぐに対応されている姿に、どの研修会でも実現したら良いのにと感じてしまいました。群馬大学での取り組みが全国各地でも広がるといいな、また、教員養成だけに限らず、手話通訳者育成課程が福祉学部等でも増えていくと良いと感じました。
・どのコマも駆け足で、もう少し長く話を詳しくお聞きしたかったという感想が強いです。2 日日程で開催するか、せめて開始時刻を早めていただきたかったです。全く、質疑の時間を設けていただけなかったのも残念な点です。しかし、内容はどれも素晴らしく、興味深いものばかりでした。運営の皆様ありがとうございました。また次回も参加したいです。
・厚生労働省の資料は細かい数字が多いため、資料は 1P6 枚ではなく 4 枚くらいの少し大きめの印刷ですと見やすいので助かります。
・手話の重要性について改めて感じました。また手話言語の獲得とともに、日本語・国語の力を伸ばすためにどのようにしていくべきかについても今後、課題になると思いました。ありがとうございました。
・自宅で復習したい。(専門的な言葉が多いので)。秋山さんの発表は感動しました。今後私たちと共に考えなければならないテーマでした。
・パワーポイントの資料をまとめる時にせめて 4 枚分を 1 シートに載せてほしい。6 枚分は文字が小さくて見にくい。改善してください。初参加でしたが大変有意義な一日となりました。ありがとうございました。
・今日はありがとうございました。人工内耳の児童生徒が増えている現状と、教育現場の課題を伺い、とても勉強になりました。心が通じる、わかり合えるために、今後どんな取り組みが必要か教えていただきたいと思いました。
・学術に特化した手話とは何なのだろう？そんな疑問を持って初めて参加しました。日本手話を身につけたろう者にとって日本手話の中に専門用語をわかり易く含めていくことなのかな、ということでしょうか。抽象的概念を表すことの前に、まず日本手話をきちんと理解できる聴者を養成すること、その教える手順、教科書の試作版を帰ってから見せて頂こうと思います。
・特に教員問題について深く知り、とても参考になりました。
・冊子のパワポ資料の大きさについて。大きいことに問題は感じませんが、p26~45 は読めません。しかも機械トラブルで時間がたりないという理由？スライド早く、話も早く、条文の番号を代名詞的に使うなどわかりにくすぎました。関心のある内容だっただけに残念すぎます。塩野さんの話。今回のシンポ参加者対象に、手話通訳の概要説明長々と必要か？ほとんどのスライドが白っぽく見にくい、黒ベースにしてほしい＋スライド画面不安定、機器トラブル大。2 人目の長谷さんの話は分かりやすかったですが、それでもやはり教育研修の詳細は不必要。テーマに即した内容に絞ってほしい。企画全体はすばらしい。群大の学生さんもすばらしい、がんばれ。今井さんに時間を割きすぎて秋山さんの時間が足りなかったなんて本末転倒すぎる。全体的に教員紹介などに割く時間が多すぎ。それでパネリストが準備していたこと話せないなんて(自分が話過ぎたことが原因じゃないのに)おかしいと思います。ちょっとやりすぎ。バランスを！！
・次回も参加したいと思いました。
・法律や方策について色々あるので、政治的な側面もあり議員さん等々も来場されているのだなと思いました。今井議員がお話にあったような活動をされていることを無知で知りませんでした。
・行政のレジュメが細かすぎて見にくい。パワーポイントで説明していただいているが、再度資料を見る際に見にくくてわからない。明晴学園のように日本手話専門のろう学校を国で増やすべきだと思う。ろう者の先生養成大学を増やしてほしい。手話が禁止され口話教育になってすべてろう者の先生を排除した時代もあったようだが、手話が言語になった今、抜本的に変えていかなければならない。
・大学 3 年生＝手話通訳者、良きモデルとなり、通訳としてすばらしい仕事をしていただきありがとうございました。行政の方々がパワポの資料通りに話すのは止めて頂きたいです。上手に時間を使っていただくためにも、今後工夫して頂けたらと思います。これらをふまえ、来年も期待しております。

・一部の聴者の発言スピードが手話通訳者と合っておらず、通訳がやりにくそうだった。ただ事柄を並べて喋るのではなく、周りの状態を見たうえで発言してほしい。今井氏のために1時間も時間を割く理由がわからない。他のパネリストの立場は？参加者同士のディスカッションがあればよい。当日受付や様々な準備をしてきた学生さん達お疲れ様でした。研究結果の羅列より、現状における課題に対する解決策（絶対でなくてよい）の提示、実体験に基づく話（15 日の岩田恵子氏のような）これから我々がすべき事などが聞きたかった。ろう通訳を群馬大学はどう捉えており、今ある手話通訳養成事業にどうフュージョンしていくか。手話通訳者の手話読取レベルが低いのが気になる。
・大変参考になりました。引き続きよろしくお願い申し上げます。
・年々シンポジウムの内容が多岐にわたっているので、学術手話通訳の必要性を感じた。
・今井議員の出席者の切実な現状に対する具体的な推し進めるという気持ちが感じられず、非常に残念だった。群馬大学のすばらしい取組には感動した。全国に広がることを期待したい。
・現在のろう学校の現状、教師の大変さとか色々わかりました。今後も良い体制に変わっていくことを祈っています。
・この事業が目指すところがよくわかりました。大変勉強になりました。
・現状の問題はよくわかりました。今後、日本は手話、情報アクセシビリティーをどのような方向へ向かったらいいのかも多くお話ししていただけるとありがたいです。
・午後の行政の説明について資料の文字が小さくて読みにくかったです。普段ろうの方と接する機会が少なく、手話を使う機会を自分で作ることも難しいので、手話の力を維持していく難しさを感じています。また専門分野のことをわかりやすく伝えるという点では分野は違えど変わらない課題なのだと感じました。1 日とても勉強になりました。ありがとうございました。
・行政説明のスライドが文字が小さい上に、6 枚まとめての印刷なのでほどんと読めない。学生の手話通訳への取り組み、素晴らしかったです。頑張ってください。
・去年、市役所で入門コースに参加しました。福祉の仕事で 10 年くらい続け、スキルアップで手話を初めて、今年更に基礎課程と考えていましたが、特養施設の新規立ち上げに入ってしまったこともあり、参加できませんが、今回のシンポジウムに参加できて、手話をもっと奥まで追求したくなりました。
・午前の群馬大学の取り組みの様子（通訳者の養成）の方法と地域の奉仕員養成の指導方の違いを感じました。地域の入門・基礎では文法的な指導はなかなか取り入れられないため、サークル等に通い長期間かけて NM 表現を身につけていくことが求められます。大学生の短い期間で文法も取り入れた養成を行うのは大変なことだと思います。
・昨年に引き続き参加させていただきました。手話に関わる者として、教育に関わる者として、大変参考になることの多いシンポジウムでした。考えることをやめない者でありたいと改めて感じました。ありがとうございました。
・せっかくの機会でしたので、ろう通訳者にも通訳してもらい、「日本手話」の重要性をアピールされると良かったかも。以前、金澤先生が「そのうち、全国の皆様にも"日本手話"のテキストをお渡しできると思う」と言ってくださった通り、こんな短期間で素敵なお土産をいただきありがとうございました。金澤先生によろしくお伝えください。オンライン講座も横浜の通訳者達に転送しました。
・ろう学校の現状で、子供たちも教員もガマンしているということに驚いた。教員に求められるスキルと、教員が活躍できる環境、子供たちの情報保障についてもう一歩踏み込んだ施策が必要と感じる。
・厚労省と文科省のお 3 人は、別の場所でも拝聴し、その時も感じたことだが、話し方にしろ資料の作り方にしろ、「説明する」ことが目的になってしまっていて、「相手に伝えること」を分かっていないと思う。あれでは「資料を家で読んでください」で十分。時間の無駄。その分、時間調整して短縮してくださった甲斐さんと二神さんの話をもっと聞きたかった。金澤さん、いい企画をいつもありがとうございます！これからも頑張ってください！
・教師にとって児童にどう向き合うかを教えていただきたい。
・コロナウイルスが流行っている中で色々とお疲れ様です。ろう教育や手話通訳養成、ろう重複、盲ろう教育…など、沢山学ばせていただきました。本当にありがとうございます。こちらのシンポジウムに参加させていただいて、専門支援者の養成のために日々熱心に頑張っている様子がとても伝わりました。私はインテグレートの経験があるため、普段は日本語対応手話、口話を使っています。日本手話、日本語対応手話、口話など…。どちらにも良さがあります。1 つだけの言語、コミュニケーションツールに絞るのではなくて、全体のコミュニケーションツールを大切にしていってほしいです。みんなそれぞれ違うので、個人個人を尊重する社会を目指していくことも大切だと思います。（これは、障害者だけでなく、年齢や国籍を問わずグローバルな社会にしていくことです。）
・金澤先生…いつも内容の濃い深い論題を扱って下さりありがとうございます。ろう学校で手話が教えられない教育現場等々…両方からの声を見ることができました。今後、"手話語"が確立され、同時にろう者の方々が本当の意味でだれからもどの立場の方からも認知され、健聴者と全く同等の立場で、教育や社会に貢献してほしいと願っています！これからろう者の時代は明るいと！感じさせてくださる機会に参加でき感謝しています。
・毎年参加しています。毎日深い内容をありがとうございます。バラエティ豊かな、著名な方々のお話を聞けて大変勉強になりました。1 つお願いさせていただけるなら…終わりがもう少し早い（16 時くらい）だとありがたいです…。（今年は高崎で

ありがたかったですがそれでも…）また来年も参加させていただきます。
・手話発信者を移した大きなスクリーンがあり、席によって見える見えないの心配がなくとてもよかった。塩野さん登壇時、ずーーっと下を向いていて違和感があった。もっと会場に目を向けてほしかった。久川さん・秋山さんの話、とても良かった。最後の質問大事だと思った。
こちらこそありがとうございました。
・パネリストの先生方の話がとてもわかりやすかった。現場の声が届き、ろう教育が変わっていけばと思います。また、ろう教育を増やすためにも聴覚障害児にとってわかる授業を小さいときから行ってほしいと思います。ろうの先生がいることで教育現場で手話を学ぶことの助けにもなるように思います。
・行政説明が長く、資料もわかりにくかったように思いました。あの時間をもう少し短くして、後半のパネルディスカッションにあてられたら良かったのではないかと思いました。群馬大学の取り組み、今井先生、久川先生、秋山先生のお話はとても興味深かったです。ありがとうございました。
・次回も参加したいです。ありがとうございました。会社に難聴の人がいるので、コミュニケーションを取りたくて講座を受講し始めました。今回のシンポジウムはとてもわかりやすくて良かったです。
・日本手話で指導法を大変参考になりました。ありがとうございました。パワーポイントがあってわかりやすかったです。
・大変勉強になりました。濃い1日でした。日々の業務に活かしたいと思います。今井議員とこんな形で繋いでお話が聞けるとは思わなかったです。（正直、ご多忙で欠席だろう…と思っていました）便利な世の中になりましたねー。地域に今日の学びを持ち帰りたいと思います。ありがとうございました。
・沢山の方からのプレゼンを聞き、目が疲れたけど、大変良かったです。群馬大学での手話の授業カリキュラム内容と、地域の手話講習会でのカリキュラムは同じ内容だととらえてよいでしょうか？ちなみに、大学での授業時間が多く、講習会は週1で 2 時間しかできません。少ない時間で生徒が手話を覚えられるのか、そういう技術も研究していただければありがたいです。
・動画が大きく見やすく感動したが、真ん中の席からは顎をずっと上にあげた状況のため、終わり頃はつらかった。（首が痛い）内容的に濃く勉強になった。途中の休憩が欲しかった。例）10：00～11：00 のあと 5～10 分？更なる発展を祈っています！
・群馬大の取り組みは素晴らしいと思います。全国に広がると良いと思います。ろう者は国語が苦手、文が苦手という声をよく聴きます。「国語」として捉えなければいけないものなのでしょうか？外国人が日本語を学ぶように、日本手話が母語の人達は「日本語」を、外国語（例えば英語）を学ぶような方法で習えば、できるようになっていく気がします。日本人だから日本語を努力しなくてもできて当たり前という考えが正しいとも思えません。
・数年に1度でよいので、群馬県以外での開催をしていただけたらと思います。（九州から伺った男）
・今井内閣府大臣政務官とパネルディスカッションを見せていただいて参考になりました。それと、秋山さんの講話もとても良かったです。学校も国ももっともっと手話を理解を広めていってもらいたい。
・手話を勉強するにあたり最大の問題は、手話の単語表現を理解する本当の意味での辞典みたいな教材がないことが問題だと思います。例えば、英語には単純に覚えるだけの単語帳がある。これで「見る」という単語を覚えるが「見る」も see、watch、look がある。英語を使えるためには時点で、その違い、用法を勉強して使えるようになる。また、聴者の母語の日本語も、単語を聞いて、喋って、書いて覚えるが、正しい用法はやはり国語辞典の例文を読んで身につく。きちんと辞典で調べないと、「力不足」⇔「役不足」を間違って覚えたりします。秋山先生が、「カロリー！徳川」の話もありましたが、やっぱり辞典のような映像、解説の教材作りも課題だと思いました。
・ろう学校教員への手話指導。または、ろう学校教師になるためにカリキュラムに手話を入れるなど、よりよい教育現場になれるよう、ますますの発展を願っています。
・とても勉強になりました。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION 日本財団

「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業シンポジウム

【参加費】無料

教育機関で求められる手話の専門性と資格制度化の可能性

「手話」を表現している ぐんまちゃん

2020年
2月16日(日)
10:00～17:00
【開場 9:30】

高崎市総合保健センター 2F 第1会議室

〒370-0829 群馬県高崎市高松町 5-28

※手話通訳 文字通訳 付

JR高崎駅西口から徒歩13分

プログラム

10:00～10:15	開会挨拶
10:15～10:35	事業成果報告 〈全体概要〉 金澤 貴之(群馬大学 教育学部 障害児教育講座 教授)
10:35～11:15	手話通訳養成の取り組み ●「構文指導のためのテキスト開発と授業実践」 下島 恭子(群馬大学 大学教育・学生支援機構 学生支援センター 産学官連携研究員) ●「着実な技術習得のための通訳カリキュラム再編成」 能美由希子(群馬大学 教育学部 障害児教育講座 助教)
11:15～11:55	ろう重複障害者支援者養成の取り組み ●「盲ろう者支援者養成カリキュラムの導入」 甲斐 更紗(群馬大学 教育学部 障害児教育講座 助教) ●「『なかま企画』実施の意義」 二神 麗子(群馬大学 教育学部 障害児教育講座 助教)
11:55～12:00	事務連絡
昼食休憩(60分)	
13:00～14:30	行政説明 「手話の資格化をめぐる諸課題」 ●「聴覚障害教育の専門性の向上に向けた課題」 佐々木邦彦氏(文部科学省 初等中等教育局 特別支援教育課 特別支援教育企画官) ●「教員の専門性を向上するための体系的・効率的な学びに向けて」 長谷 浩之氏(文部科学省 総合教育政策局 教育人材政策課 教員免許企画室長) ●「手話通訳士・者養成の現状」 塩野 勝明氏(厚生労働省 社会・援護局 障害保健福祉部 企画課 自立支援振興室長補佐)
休憩(15分)	
14:45～16:45	パネルディスカッション 「教員養成に求められる手話のスキルとは？」 ・ファシリテーター：金澤 貴之(群馬大学 教育学部 障害児教育講座 教授) ・パネリスト：久川浩太郎氏(筑波大学附属聴覚特別支援学校 教諭、群馬大学 教育学部卒業生) 秋山 奈巳氏(川崎市立聾学校 教諭、群馬大学大学院 教育学研究科専門職学位課程修了生) 今井絵理子氏(内閣府大臣政務官)※公務の都合により欠席がありうることをご容赦ください。
16:45～17:00	閉会挨拶

【申込方法】
ホームページからのお申込みをお願いいたします。
https://forms.gle/zBCu7NdjVz578UoA9
ホームページからのお申込みが難しい場合は、FAX(裏面送信票)にてお申込み下さい。

【申込期限】 1月26日(日)

【駐車場について】 当日は、高崎市総合保健センターの駐車場を無料でご利用いただけます。受付にて手続きをいたしますので、必ず駐車券をお持ちください。

【託児について】 当日は臨時の託児所(無料)を開設いたします。ご利用希望の方につきましては、申込みの際に託児利用希望欄へチェックをしてお申込みをお願いいたします。詳細については後日ご連絡いたします。なお、群馬大学は事故等の責任を負わないことを申し添えます。(@jimu.gunma-u.ac.jpより連絡させていただきますので、受信できるようドメイン設定をお願いします。)

【その他】 ろう重複児・者の方と一緒に参加される場合は、申込みフォームの「特記事項」に記入をお願いいたします。詳細等につきましては後日ご連絡いたします。

問合せ先 手話サポーター養成プロジェクト室
TEL.027-220-7157 FAX.027-220-7390
MAIL.SLSDP@jimu.gunma-u.ac.jp

LINE ID：gunma-u-sign

https://www.facebook.com/gunmasig

主催 国立大学法人 群馬大学
共催 群馬県、高崎市
後援 群馬県聴覚障害者連盟、前橋市
助成 日本財団
https://www.nippon-foundation.or.jp/

「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業シンポジウム

ホームページからのお申込みはこちら⇨https://forms.gle/zBCu7NdjVz578UoA9

FAXでのお申込みは、下記FAX送信票をご利用下さい。

FAX送信票

お申込日　　年　　月　　日

「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業 2019年度シンポジウム 【参加申込書】

フリガナ				
参加者氏名				
ご住所	〒　　－			
連絡先	TEL		FAX	
	E-mail	@		
職業（もしくは所属）				
託児利用（無料）	有・無	※託児の詳細については、後日メールにてご連絡させていただきます。「@jimu.gunma-u.ac.jp」より連絡いたしますので、受信できるようドメイン設定をお願いします。		

上記のとおり、「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業 2019年度シンポジウムに申込みます。

FAX送信先：群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室

FAX：027-220-7390　申込期限：1月26日（日）

7. 成果発表

全国高等教育障害学生支援協議会 第5回大会 ポスター発表

大学の講義を通じた日本手話習得後の発展的カリキュラム

群馬大学 1)学生支援センター・手話サポーター養成プロジェクト室 2)教育学部

甲斐更紗 1)　金澤貴之 2)　二神麗子 1)

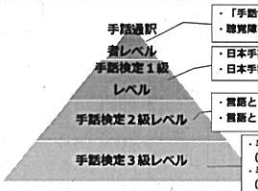
1.はじめに

高度な手話通訳スキルと専門的なスキルを持つ人材育成の必要性

・聴覚特別支援学校から高等教育機関に進学する聴覚障害学生の増加。
・障害者差別解消法に基づく合理的配慮提供の（努力）義務化。
・手話言語条例制定による「手話で各教科・領域を学ぶ」環境整備の要請。

・地方公共団体や企業、事業所で特殊技能を持つ人材の需要の増加。
（特殊技能としての手話技術）
・教育現場における教育の専門性と手話技術の必要性
（専門性を発揮するための手話技術）
・福祉、医療現場などの専門的な対応が必要な場面での直接的支援のできる専門的な知識・技能の必要性（原,2015）
（専門性のひとつとしての手話技術）

「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業（2017～2018年度）

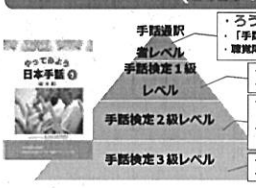


・「手話サポーター」としての実習（４年次）
・聴覚障害教育演習Ｃ（３年次）
・日本手話と日本語の違いを学ぶⅡ（３年次）
・日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ/Ⅱ（２年次）
・言語としての日本手話ＡⅠ/ＡⅡ/ＢⅠ/ＢⅡ（１年次）
・言語としての日本手話実践ＡⅠ/ＡⅡ/ＢⅠ/ＢⅡ（１年次）
・手話とろう文化（１年次）
・手話と情報アクセシビリティ（１年次）

全国手話検定試験
２級　１０名
３級　　６名
４級　２１名
５級　　２名
合格率１００％
（２０１８年度）

2017年度から群馬大学では日本財団助成「学術手話通訳に対応した通訳者の養成」事業として、学生に日本手話を習得させ、その上で手話通訳の技術を習得させる取り組みに着手した。

「学術手話通訳に対応した　　の養成」事業（2019年度～）



・ろう重複障害支援技術の習得(演習Ｄ・Ｅ)
・「手話サポーター」としての実習（４年次）
・聴覚障害教育演習Ｃ（３年次）
・日本手話と日本語の違いを学ぶⅡ（３年次）
・日本手話と日本語の違いを学ぶⅠ/Ⅱ（２年次）
・言語としての日本手話ＡⅠ/ＡⅡ/ＢⅠ/ＢⅡ（１年次）
・言語としての日本手話実践ＡⅠ/ＡⅡ/ＢⅠ/ＢⅡ（１年次）
・手話とろう文化（１年次）
・手話と情報アクセシビリティ（１年次）

2019年度からは、事業名を「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」に変更し、３年間で手話通訳技術を習得した後の発展的事業として、厚生労働省の定める「盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラム」を包含する、**聾重複障害者の支援者養成**に着手することとなった。

2．聾重複支援者養成カリキュラムの特徴

・厚労省盲ろう者向け通訳・介助員養成カリキュラム対応

群馬大学での所定授業を履修することで地域の中でも盲ろう者向け通訳・介助員として活動（例：A県の場合、A県盲ろう者友の会（A県からの委託事業である「盲ろう者向け通訳・介助員派遣事業」を担う団体）に登録できる）

厚労省標準カリキュラム（地域生活支援事業の都道府県必須事業「盲ろう者向け通訳・介助員養成研修事業」）

必須科目（42時間）

養成目標：盲ろう者の生活及び支援のあり方についての理解と意識を深めるとともに、盲ろう者との日常的なコミュニケーションや盲ろう者への通訳及び移動介助を行うに際し、最低限必要な知識及び技術を習得する。
到達目標：盲ろう者と１対１での外出（買い物・食事などに伴う外出）などの日常生活上の場面において、必要な通訳・介助を行うことができる。

教科名	時間数	形式
盲ろう者概論	2	講義
盲ろう疑似体験	2	講義・演習
視覚・聴覚障害の概説	2	講義・演習
盲ろう者の日常生活のニーズ	2	講義
盲ろう者のコミュニケーション技法と留意点	8	講義
盲ろうコミュニケーション演習	14	演習
通訳・介助員の心構えと倫理	2	講義
盲ろう通訳技術の基本	2	講義
移動介助実習Ⅰ	2	実習（演習）
通訳・介助実習Ⅰ	4	実習（演習）
通訳・介助員活動事業と通訳・介助員の業務	2	講義

選択科目（42時間）

養成目標：必修科目の研修修了に加えて、盲ろう者向け通訳・介助員の役割・資質などについて理解と知識を深めるとともに、多様なニーズや場面におじた通訳及び移動介助を行うに際し、必要な知識及び技術を習得する。
到達目標：電車、バスなどの公共交通機関の利用を伴う外出や複数の者が参加する講演会、会議などの場面において、必要な通訳・介助を行うことができる。

教科名	時間数	形式
盲ろう児の教育と支援	2	講義
高齢盲ろう者の生活と支援	2	講義
他の障害を併せ持つ盲ろう者の生活と支援	2	講義
盲ろう者福祉制度講論	2	講義
盲ろう通訳技術の実践	2	講義
通訳・介助員のあり方	4	演習
盲ろう者の通訳技法と留意点	6	講義
盲ろう通訳実習	8	実習
移動介助実習Ⅱ	8	実習（演習）
通訳・介助実習Ⅱ	6	実習（演習）

群馬大学

授業名	時期	形態	学年	単位	内容
聴覚障害教育演習D	前期	集中講義(30単位時間)	4年生以上	1	聾重複障害児に対応した手話表現および触手話通訳技法等について学ぶ
聴覚障害教育演習E	後期	集中講義(30単位時間)	4年生以上	1	聾重複障害児に対応した手話表現および触手話通訳技法等について学ぶ。受講にあたり、「聴覚障害教育演習D」を履修していることを条件とする。

聴覚障害教育演習D

・上述とは別に「重複障害児教育総論」などの授業科目も有り

・手話通訳技術を習得した者の更なる触手話、指点字のスキルの習得 → 盲ろう者などへの学術的な通訳にも対応できる技術の習得

・盲ろう児の心理や聾重複児の指導を含む特別支援教育関連の講義の包含 → 特別支援学校教員として必要な発達的観点の習得

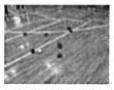
3．本カリキュラムのねらい

「手話通訳者」を目指さない者にとっても手話通訳技術の習得が関連専門職として意義あるものに繋がる
→手話通訳技術の習得を目指す学生のモチベーションの強化

関連講座

盲ろう者大学院生の講演による学び（2018年度「手話で学ぶろう者学」公開講座）

ろう重複障害者との関わりの機会の提供



本プロジェクトの学生と地域のろう重複児者を持つ親の会との交流会

https://sites.google.com/a/gunma-u.ac.jp/kanazawalab/tomato

・高等教育機関にて年々における障害学生（33,812人）の増加（全学生数の1.05%）（JASSO,2018）
・高等教育機関における重複障害学生の増加（JASSO,2018）

聴覚障害に加えて他の障害も有する障害学生に対応できる支援者の養成へ

問い合わせ先 群馬大学手話サポーター養成プロジェクト室
http://sign.hess.gunma-u.ac.jp/
TEL:027-220-7157 FAX: 027-220-7390

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION
本事業は日本財団による助成を受けて実施しています。

日本社会福祉学会 第67回秋季大会 ポスター発表（2019.9.21-22）

ろう重複障害者の居場所づくりの促進要因の検討
―親の会と聴覚障害者関係団体との関わりに着目して―

1)群馬大学（会員番号008847）
二神麗子 1)

1. はじめに

ろう重複障害とは

聴覚障害とその他の障害を併せ有すること。
聴覚障害ゆえに生じる言語獲得の困難さが，認知発達の停滞を引き起こし，あらゆる全人的発達に影響を及ぼす可能性がある。

ろう重複障害者のコミュニケーション方法

手話によるコミュニケーションが基本。
知的発達の差異，手指運動の制限，生育環境等がそれぞれ異なるため，個別性・専門性の高いコミュニケーションニーズを持つ。

「制度の谷間」の課題

自立支援法以降，市区町村単位での支援が基本になっている。しかし，ろう重複障害者は非常に少数かつ広域に点在。
多くのろう重複障害者はコミュニケーション環境が十分ではない地域の福祉施設・特別支援学校の中で，適切な支援が受けられていない状況であることが考えられる。

ろう重複障害に対応できる専門施設

少数ながらも，ろう重複障害者への専門施設は全国にある。

ろう重複障害者の当事者性

ろう重複障害者本人の意志やニーズを「親の会」が代弁している。親のほとんどは聴者であるため，ろうコミュニティに入ることに困難さがある場合もある。

2. 目的

厚生労働省事業調査において得られたデータをもとに，施設設立当時の語りに注目し，ろう重複障害者の親と設立に関与した団体との関係性からろう重複障害者の居場所づくりの実現に必要な要素について考察する。

3. 分析の視点および方法

厚生労働省平成30年度障害者福祉総合支援事業「聴覚障害と他の障害を併せ持つためにコミュニケーションに困難を抱える障害児・者に対する支援の質の向上のための検討」（以下，厚労省推進事業）として，ろう重複障害者の関係者への多角的な調査が実施された。厚労省推進事業において実施された調査A～Hのうち，調査E・Fの定性調査について，以下の分析を行った。
【調査期間】2018年9月～2019年1月【調査方法】インタビューによる定性調査【対象者】ろう重複障害者を持つ親の会2団体の会員，ろう重複障害者が利用する10施設の職員
【調査内容】親の会の活動や，施設の設立過程，支援内容等についてインタビューを実施した。
【分析の視点】インタビュー全体のうち，「事業所・施設が設立された経緯」に関する語りに注目し，ろう重複障害者の親たちと聾者団体との関係性がろう重複障害者の居場所づくりに与える影響を考察することとした。

倫理的配慮

日本社会福祉学会の倫理指針を遵守した上で，個人情報の取り扱いには特に十分留意し，調査を行い，調査データを扱った。

【付記】本報告は厚生労働省平成30年度障害者福祉総合推進事業「聴覚障害と他の障害を併せ持つためにコミュニケーションに困難を抱える障害児・者に対する支援の質の向上のための検討」の結果を，2019年度日本財団助成「学術手話通訳に対応した専門支援者の養成」事業として更に分析加筆したものである。

問い合わせ：群馬大学 学術手話通訳に対応した専門支援者の養成プロジェクト
（専門支援者養成担当：二神）
E-mail：r.futagami@gunma-u.ac.jp
TEL:027-220-7157 FAX: 027-220-7390

4. 結果

設立に関与した関係団体の組み合わせを２つに分類し，インタビュー内容から生成されたカテゴリーについて下表にまとめた。

	関係団体の組み合わせ	生成されたカテゴリー
分類①	親の会とろう協／親の会と行政（聾学校元関係者，障害福祉課等）	【設立のきっかけとなった親・家族の思い】【当初からのろう協会の関わり】【運営がろう協会に移行する過程】【制度等の活用】【行政の積極的な姿勢】【ろう学校設備を利用するなどの関係】
分類②	ろう協の一部／ろう協と聾学校	【聾者の居場所を求めて本人・支援者が中心となって動いた活動】【コミュニケーションの場所として動いた活動】

親の会が中心となって設立に至った分類①では，親の会の力だけで施設設立は難しく，ろう協会や教育・福祉行政など，ろう重複障害者の当事者ではないが，「ろう重複障害者も聾者コミュニティの一員」「聾教育の対象」という共有イメージを作っていった。分類②では，ろう協が中心となって設立に至っているが，設立のきっかけとしてろう重複障害者の課題があったわけではなく，高齢ろうあ者や，何らかの理由で社会不適応を起こし在宅生活を余儀なくされた聾者の問題など，聾者にとって身近な課題意識が前提にあったことがわかった。

5. 考察

ろう重複障害者支援施設設立のためには，当事者たる「ろう重複障害者の親」以外の特にろう協会の協力が必要であることがわかった。ろうコミュニティにおけるろう重複の問題の捉え方は以下の２パターンに分けることができるだろう。すなわち，①ろう重複障害者もろうコミュニティの一員と認め，ろう社会全体の中でのインクルーシブの実現を目指す場合（図１）と，②何らかの支援を必要としている聾者（高齢者，引きこもり等）の中の一部としてろう重複障害者も含むと考える場合（図２）である。①は，ろうコミュニティには異なる困難さを抱えている人々がいるが，個別の課題に対して「それは私達自身の課題」と，他の聾者も「当事者意識」を持ってろう重複の問題を捉えている。②は，ろう重複の課題を我々の課題と捉えてはいるが，「困難さを抱えた支援が必要な人々」として捉え，当事者性と同時に「他者性」も内包しているといえる。

図1．パターン①インクルーシブ社会の実現を目指す場合

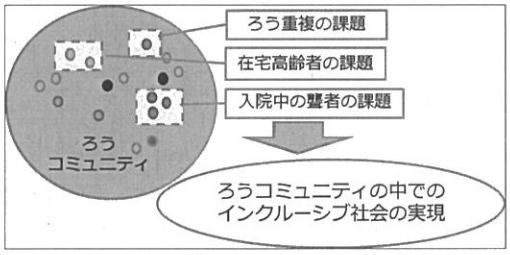
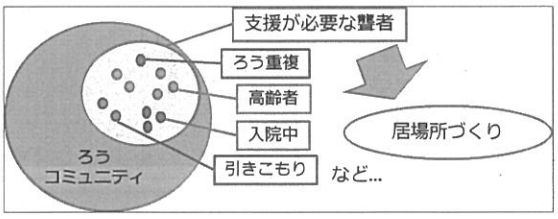


図2．パターン②支援を必要としている人の中にろう重複も含む場合



日本特殊教育学会第57回大会 ポスター発表

聾重複障害者へのコミュニケーション支援の課題
ー手話習得経験の有無による相談支援専門員の認識の違いからー

○金澤貴之[1)]　甲斐更紗[1)]　二神麗子[1)]　吉村京子[2)]　木村素子[1)]
1) 群馬大学　2) NPO法人日本アビリティーズ協会

KEY WORDS: 聾重複障害者　相談支援専門員　手話習得経験の有無

目　的

「聾重複障害」は様々な多様性を含んでいる→その多くは知的障害を伴っている

・聴覚障害ゆえに生じる言語獲得の困難さが認知発達の停滞を引き起こす
　→知的障害に特化した教育機関や福祉施設において十分な知的発達が期待できるとはいえない。
・支援者側が手話を始めとしたコミュニケーション支援スキルを十分に有しているかどうかが，聾重複障害者の健全な全人的発達や充実した就労・生活環境の保障の鍵となる。

聾重複者に対応したコミュニケーションスキルをより多くの支援者（特別支援学校教員や相談支援専門員）が習得できるかが重要な意味を持つ

厚生労働省平成30年度障害者福祉総合推進事業「聴覚障害と他の障害を併せ持つためにコミュニケーションに困難を抱える障害児・者に対する支援の質の向上のための検討」（以下，厚労省推進事業）として，聾重複障害者に関わる関係者への多角的な調査が実施された。

同事業調査において得られたデータのうち，相談支援専門員の「手話習得経験の有無」に注目し
それにより聾重複障害者とのコミュニケーション実態の捉え方にどのような差が生じるかを明らかにした。

方　法

倫理的配慮にあたって個人が特定されないように無記名式の調査票とした。依頼文に調査の目的・方法・公表等を明記し，回答者が調査票を返送する場合は本調査に対して同意したと見なした。

調査期間：2019年1月～2月　**調査方法：郵送配布による質問紙調査**（日本相談支援専門協会事務局を通しての郵送配布）

質問紙調査の内容：①対象者の属性など：手話習得経験の有無，聾重複障害者との関わりの経験の有無の回答を求めた。②聾重複障害者と関わる時のコミュニケーション手段：特に大切と考えるコミュニケーション手段の回答を求めた。③初回の段階における関わり（初回面談など）での各コミュニケーション手段におけるコミュニケーション実態について：「手話」「口話」「筆談」「身振り」「絵カードや写真の利用」におけるコミュニケーション実態（「きわめて成立しにくい状態である(1点)」「簡単な指示や要求の伝達が通じ合える(2点)」「意志や感情の伝達が通じ合える(3点)」「日常生活を営む上で自由に相互的やりとりができる(4点)」のいずれか：永石（2007）など）についての4段階評定で回答を求めた。④現在あるいは最終的段階の関わりでの各コミュニケーション手段におけるコミュニケーション実態について：「手話」「口話」「筆談」「身振り」「絵カードや写真の利用」といった各コミュニケーション手段におけるコミュニケーション実態（「きわめて成立しにくい状態である(1点)」「簡単な指示や要求の伝達が通じ合える(2点)」「意志や感情の伝達が通じ合える(3点)」「日常生活を営む上で自由に相互的やりとりができる(4点)：永石（2007）など）についての4段階評定で回答を求めた。

対象者：郵送配布した1984件のうち，509名（回収率25.6%）から回答が得られた。そのうち，450名（回答者の88.2%）のデータを用いた。

分析：相談支援専門員の聾重複障害者との関わりにおけるコミュニケーション実態に関する回答傾向から，手話習得経験の有無によりどのような差があるかを探るために，基本統計量を算出したあと，比較を行った。

結果と考察

1．対象者の属性などについて

（1）相談支援専門員の手話習得経験の有無について（図1）

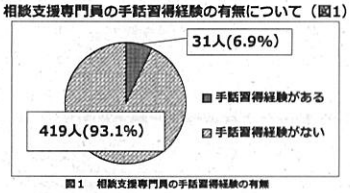


図1　相談支援専門員の手話習得経験の有無

（2）相談支援専門員の聾重複障害者との関わりの経験の有無について（図2）

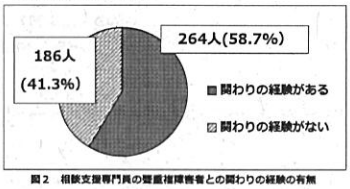


図2　相談支援専門員の聾重複障害者との関わりの経験の有無

（3）相談支援専門員の手話習得経験の有無と聾重複障害者との関わりの経験の有無との関係性において，有意が認められた（χ^2=x4.828, df=1, p<0.05，Fisherの正確確率による）。

手話習得経験が有る相談支援専門員は回答者全体の6.9%であるが，聾重複障害者との関わりをもったことがある相談支援専門員は58.7%であることが把握できた。相談支援専門員にとって，相談支援業務における聾重複障害者との関わりは十分にありうることであると考えられた。そして，手話習得経験が無い相談支援専門員が聾重複障害者と関わっている実情が明らかになったといえよう。このことから，聾重複障害者と関わる相談支援専門員の手話などの知識・技能が不足していることが推察された。

2．聾重複障害者への関わりにおける「特に大切と考えるコミュニケーション手段」の認識について（表1）

（1）手話習得経験の有無による違い（表1）：

・手話習得経験が有る相談支援専門員群（n=15）では「手話」4名（26.7%），「手話通訳」4名（26.7%），「絵カード・写真の利用」4名（26.7%）がもっとも多かった。
・手話習得経験が無い相談支援専門員群（n=164）では「筆談」58名（35.4%）がもっとも多かった。

（2）聾重複障害者への関わりにおける「特に大切と考えるコミュニケーション手段」である「手話（手話通訳も含む）」「絵カード・写真の利用」「筆談」による「初回」及び「現在あるいは最終的」段階でのコミュニケーション実態について：

(1)にてみられた，2群における「特に大切と考えるコミュニケーション手段」が上位順に多い「手話（手話通訳も含める）」「絵カード・写真の利用」「筆談」の3つについて，聾重複障害者との「初回」及び現在あるいは最終的」段階での関わりに差があるかどうかについて，Wilcoxonの順位和検定を行った。結果として，有意差が認められたのは「初回」での「手話」（z=-2.256, p<.05），「現在あるいは最終的」段階での「手話」（z=-2.803, p<.001）であった。

手話習得経験が有る相談支援専門員において，特に大切と考えるコミュニケーション手段として「筆談」を選択する人は皆無であった。しかし，手話習得経験の無い相談支援専門員においては「筆談」がもっとも多かったことから，手話などの知識・技能が不十分であるために聾重複障害者との関わりにおけるコミュニケーション支援スキルの範囲が「筆談」に制限されることが窺えた。

表1　相談支援専門員の手話習得経験の有無による聾重複障害者との関わりで特に大切と考えるコミュニケーション手段の違い

（上段：実数　下段：回答比率（%））

	手話	手話通訳	絵カード・写真の利用	口話	身振り	文字通訳	筆談	その他※	計
手話習得経験有（n=15）	4 (26.7)	4 (26.7)	4 (26.7)	1 (6.7)	1 (6.7)	1 (6.7)	0 (0.0)	0 (0.0)	15 (100.0)
手話習得経験無（n=164）	17 (10.4)	34 (20.7)	16 (9.8)	9 (5.5)	6 (3.7)	1 (0.6)	58 (35.4)	23 (13.9)	164 (100.0)

※その他は「具体物の利用」「サイン（マカトン含む）」「指差し」などである

（左側：実数　右側：回答比率（%））

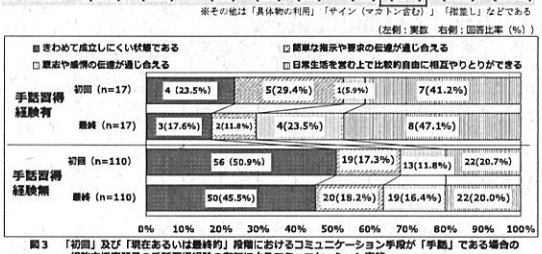


図3　「初回」及び「現在あるいは最終的」段階におけるコミュニケーション手段が「手話」である場合の相談支援専門員の手話習得経験の有無によるコミュニケーション実態

3．聾重複障害者との関わりの経験が有る相談支援専門員の手話取得経験の有無による「初回」及び「現在あるいは最終的」段階における聾重複障害者との関わりでの「手話」によるコミュニケーション実態の捉えについて（図3）：

・手話習得経験が有る相談支援専門員による「初回」，「現在あるいは最終的」段階における聾重複障害者との関わりでのコミュニケーション実態は「日常生活を営む上で比較的自由に相互的やりとりができる」（初回：41.2%，現在あるいは最終的：47.1%）がもっとも多かった。聾重複障害者との「初回」及び「現在あるいは最終的」段階での関わりのコミュニケーション実態に差があるかどうかについてWilcoxonの符号付順位検定を行った。結果として有意差はみられなかった。

・手話習得経験が無い相談支援専門員による「初回」，「現在あるいは最終的」段階における聾重複障害者との関わりでのコミュニケーション実態は「きわめて成立しにくい状態である」（初回：50.9%，現在あるいは最終的：45.5%）がもっとも多かった。聾重複障害者との「初回」及び「現在あるいは最終的」段階での関わりのコミュニケーション実態に差があるかどうかについてWilcoxonの符号付順位検定を行った。結果として有意差が認められた（z=-2.101, p<.05）。

手話習得経験が有る相談支援専門員の方が初回からの段階において，聾重複障害者との間に比較的自由に相互的なやりとりが成立されることが考えられた。そして，継続的に関わっていくことで，コミュニケーション実態が有意義なものになることが考えられた。また，手話習得経験が有る相談支援専門員と手話習得経験が無い相談支援専門員両者の間でそれぞれのコミュニケーション実態にて開きがあることが言えよう。以上から，初回の段階から手話などの知識・技能を有することで，聾重複障害者と継続的に関わることができ，コミュニケーション実態に影響を及ぼすことが推測された。

総合考察

・聾重複障害者と相談支援専門員を始めとする支援者との関わりにおいて，支援者側が手話などの知識・技能を持つか，もしくは手話に対する認識があるかによって，コミュニケーション支援のあり方が大きく左右されることが窺えた。
・厚労省（2018）によると，指定特定・指定障害児相談支援事業所数9,364箇所に配置されている相談支援専門員数は19,083人（平成29年4月1日時点）であり，全国にいる相談支援専門員はおよそ20,000人を超えることが推察される。その中で，本調査によると聾重複障害者と関わったことがある相談支援専門員が約260人である。つまり，相談支援専門員が対応する数多くある支援例の中では，聾重複障害者と関わる例はほんのわずかである可能性が考えられよう。これは聾重複障害者が「マイノリティ」であることを意味している。聾重複障害者との関わりにおけるコミュニケーション方法や手話の存在が分からないため，十分なコミュニケーション環境が成立しないことにつながるのではないだろうか。

・相談支援専門員や特別支援学校教員などの支援者向けに手話などの知識・技能などの研修等を行っていく必要性が示唆された。またどのような研修内容，どの程度の手話などの知識・技能の研修を行うべきか検討することが今後の課題である。

厚生労働省平成30年度障害者福祉総合推進事業「聴覚障害と他の障害を併せ持つためにコミュニケーションに困難を抱える障害児・者に対する支援の質の向上のための検討」の結果（調査A）を2019年度日本財団助成「学術手話通訳に対応した専門支援者の育成」事業として更に分析加筆したものである。ご協力いただきました皆様に感謝の意を記します。

Supported by 日本財団 THE NIPPON FOUNDATION　群馬大学

日本特殊教育学会第57回大会 ポスター発表

ろう支援者によるろう重複障害者への手話を活用したコミュニケーション支援

○甲斐更紗[1)]　二神麗子[1)]　吉村京子[2)]　木村素子[1)]　金澤貴之[1)]
1) 群馬大学　2) NPO法人日本アビリティーズ協会

KEY WORDS: ろう重複障害者　ろう支援者　手話活用

目　的

様々な障害を併せ有するろう重複障害児が理解・表現に用いる日常的なコミュニケーション手段：手話、指文字、口話

手話が他の手段と比較して理解・表現とともに高い割合で用いられている（永石,2007）

その一方で

・「手話が通じない」という問題がろう重複障害者の卒業後の生活の場である福祉サービスの現場であがっている（群馬大学,2019等）。

・ろう重複障害者支援に携わっているろう者による支援では、ろう重複障害者が言いたいことが「分かっている」「通じている」という話がしばしば見られる。

ろう重複障害児・者へのコミュニケーション支援に関わるろう者である支援者（以下、ろう支援者）が、手話活用によってろう重複障害者とどのように関わってコミュニケーションを支援しているのかを明らかにし、ろう支援者の視点によるろう重複障害者への手話を活用したコミュニケーション支援における必要な要素を検討する。

方　法

1)調査期間：201X年2月下旬
2)対象者：A地区の障害福祉サービス事業所B（聴者である知的障害者等を含める利用契約者複数十名、その内ろう重複障害者である利用契約者は数名であり、手話でのやりとりが限られている状態）に通所し、手話と筆談を基本的なコミュニケーション手段とし、自分から職員に話しかけられないという課題（事業所Bからの情報）があるろう重複障害青年（以下、Xさん）１名と、小学入学前後に手話を習得したろう支援者１名。
3)データ収集の手続き・分析：障害福祉サービス事業所B内にて、Xさんとろう支援者がやりとりしている場面において、ビデオ撮影を１回行なった（50分間）。映像データを文字に書き起こしし、逐語記録化した。手話・指文字・指さし等を（ ）、（ ）内での手話単語を/ /、行動を［ ］、補足情報を＜ ＞で表記し、（ ）内で発言が終わったところに/を挿入した。固有名詞等は○○に置き換えたりした。それらの記録から、ろう支援者が手話をどのように活用したのかといったエピソードを抽出した。

【倫理的配慮】研究の趣旨や方法、研究協力の任意性、個人情報やデータの取り扱いに関する守秘義務の遵守等について、対象者及び障害福祉サービス事業所Bに口頭と手話で説明をし、了承を得た。

結　果

エピソード1例（Table１）にてろう支援者の手話活用において①から⑤の要素が見出された。

①前情報の活用

ろう支援者の行動（１）：
エピソード1例が出される前にXさんとのやりとりの中で、Xさんがろう学校に通学していたという情報を引き出していたため、Xさんが分かる情報をもう一度出した（手話単語の表出）。

②の対応につなげた

②比較対象の産出

ろう支援者の行動（１）：
前述の①の内容を意識させつつ、①で出された「ろう学校」と②の対応である「ここ＜障害福祉サービス事業所B＞」という指さしで、Xさんが分かる情報を活用することで比較対象の産出を行った。

ろう支援者の行動（２）：
ろう学校の時の行動と現在の事業所での行動を比較させることで、現在の事業所内でXさんがとっている行動への気づきを促した。

③繰り返し

ろう支援者の行動：
Xさんの発言された手話（性格／違う／難しい）をそのまま繰り返ししつつ、頷きの手話を表出した。

④Xさんが分かる手話単語の活用による手話文法の産出・疑問の出し方

ろう支援者の行動：
④の対応が出されるまでのやりとりの中で分かった、Xさんが理解できる手話単語（手話／できる／できない／仲良く）を用いることによって、Yes-No疑問を表出した。

⑤繰り返しによる確認と頷きの強調

ろう支援者の行動：
繰り返しや動きを手話で強調することでXさんの話を理解したことを伝えた。

Table1 エピソード1例

【場面】Xさんは事業所内で、障害を持つ利用者（聴者）にいじめられていると思っており、辛いが彼らに関わりたくないため、解決よりも仕事に集中したいという話をしているところである。

ろう支援者：(/事業所/入った/時/周り/仲良く/したい/気持ち/あった/?//)
Xさん：(/少し/あった//)
ろう支援者：(/あった/(じゃあ)/仲良く/方法…)
Xさん：[ろう支援者の話を遮る](/謝る/仲良く/楽しく/話/する/気持ち/ある//)
ろう支援者：(/謝る/?//)
Xさん：(/うん/そう//)
ろう支援者：(/へえ/それ/ろう学校/時/?//) …①
Xさん：(/そう//)
ろう支援者：(/内容/分からない/けど/自分/から/謝る/?//)
Xさん：(/そう//)
ろう支援者：(/ここ＜障害福祉サービス事業所B＞/どう/?//) …②
Xさん：(/謝る//)
ろう支援者：(/謝る/?//)
Xさん：(/謝る/仲良くする/気持ち/ある/大丈夫//)
ろう支援者：(/今/それ/難しい/苦しい/我慢/?//)
Xさん：(/我慢//)
ろう支援者：(/ずっと/?//)
Xさん：(/ずっと//)
[略]
ろう支援者：(/ここ＜障害福祉サービス事業所B＞/友達/いる/?//)
Xさん：(/いる/職員/仲良く/できる//)
ろう支援者：(/職員/なるほど/他の…)
Xさん：[ろう支援者の話を遮る](/無理/知的や精神/性格/違う/難しい/難しい/難しい//)
ろう支援者：(/性格/違う/難しい/なるほど//)[大きく頷く] …③[手話/できる/利用者/いる/思う//)
Xさん：(/いる/(人の名前)/聞こえない/ろう学校//)
ろう支援者：(/他/いる/思う//)
Xさん：(/○○＜同じ事業所での他のろう重複障害利用者＞/手話/少し//)
ろう支援者：(/仲良く/出来る/?//)
Xさん：(/少し/○○＜同じ事業所での他のろう重複障害者利用者＞/手話/少し/コミュニケーション/難しい/話/通じない/時/ある//)
ろう支援者：[大きく頷く](/なるほど/手話/できる/できない/仲良く/できる/できない/区別/ある/?//) …④
Xさん：(/ある//)
ろう支援者：(/ある/?//)(なるほど//)[大きく頷き、腕組みをする] …⑤

考　察

今回の調査から、ろう支援者が実施した①から⑤の要素は、繰り返しの多用、文法的に単純な構造を用いるといったろう乳幼児が受信しやすい手話を発信する（鳥越,1995；松崎,2001）方法と類似しており、ろう重複障害者本人が理解できる範囲で関わることは本人の認知発達状況に応じて手話表出等の調整を行なうことであると考えられた。①から⑤の要素を活用することで、ろう重複障害者とのコミュニケーションが続くという状況があり、今回の事業所Bから「いろいろと話している」と話があったことから、コミュニケーション内容が拡がったと推察されよう。今回の対象者であるろう支援者以外の支援者が①から⑤の要素を手話活用に活かした場合のコミュニケーションの展開等の検討が今後の課題である。

厚生労働省平成30年度障害者福祉総合推進事業「聴覚障害と他の障害を併せ持つためにコミュニケーションに困難を抱える障害児・者に対する支援の質の向上のための検討」の結果（調査A）を2019年度日本財団助成「学術手話通訳に対応した専門支援者の育成」事業として更に分析加筆したものである。本調査研究にご協力してくださいました方々に心より感謝申し上げます。